令和８年９月２５日

白岡市議会議長　中　川　幸　廣　様

総務常任委員長　加　藤　一　生

総務常任委員会調査報告書

本委員会に付託の調査事件について、白岡市議会会議規則第１０５条の規定により別紙のとおり報告いたします。

調査事件名

〇埼玉東部消防組合高機能消防指令センターの取組について

総務常任委員会調査報告書

１　調査事件名　　埼玉東部消防組合高機能消防指令センターの取組について

２　調査の経過

⑴　調査年月日　令和８年７月６日（月）

⑵　調 査 場 所　埼玉東部消防組合

⑶　出　席　者　委員長　加藤　一生　　副委員長　菱沼　あゆ美
委　員　尾嶋　一雄　　委　　員　浜口　清志
委　員　松本　栄一　　委　　員　黒須　大一郎
議　長　中川　幸廣
総務部安心安全課長　大久保　修一（敬称略）
議会事務局長　大橋　寛枝　外１名

⑷　調査の概要

埼玉東部消防組合高機能消防指令センターは、１１９番通報の受理から、出動指令、現場部隊との通信、活動状況の把握等を一元的に行う拠点であり、２４時間３６５日体制で地域住民の安全・安心を守るための司令塔として機能している。

同センターで令和８年４月から運用を開始した新システム及び施設について、設備や運用状況等の説明を受け、実地視察を実施した。

ア　施設整備と災害対策

高機能消防指令センターは鉄筋コンクリート造地上３階建てで、令和７年１２月に竣工した。浸水対策として主要な指令機器や非常用発電機等を２階以上に設置し、３階サーバー室には消防指令システム用の床免振を採用している。また、地下タンク（軽油５，０００リットル）を設置し、最大７２時間の電源確保が可能な非常用発電機を備え、災害に強い設計となっている。

イ　高機能消防指令システムの導入

指令台が６台から７台に増設され、大規模災害時には指令台を最大１４台まで増設可能である。ＡＩを活用した「音声認識システム」により通報内容をリアルタイムでテキスト化できるほか、指令台と通報現場のＧｏｏｇｌｅマップとの連携により災害地点の早期特定が可能となっている。

ウ　デジタル化による災害現場との連携強化

スマートフォンの映像をリアルタイムで送信できる映像通報システム

（Ｌｉｖｅ１１９）や、耳の不自由な方向けのＮｅｔ１１９を導入している。また、全１６署所への情報表示盤の設置や、救急タブレット及び指揮支援タブレットの配備により、現場と高機能消防指令センターとの間で迅速な情報共有が図られている。

エ　実地視察

指令台における１１９番通報の対応デモンストレーション、サーバー室、非常用発電設備を確認した。また、最新鋭のはしご車や支援車などの所有車両の視察も行った。

３　意見

最新鋭のデジタル技術やＡＩの導入により、聞き間違いの防止や迅速な出動指令が可能となっており、地域の「安全・安心」を守る拠点としての大きな進化が確認できた。１０年後のシステム更新を見据えたスペース確保など、将来への備えも評価される。一つの自治体では困難である高度なシステムの整備が、消防組合という枠組みによって実現されており、広域連携のメリットを改めて強く実感した。

今後の課題として、映像通報システム（Ｌｉｖｅ１１９）などの新機能の周知徹底が必要である。また、システムの維持・改修には多額の費用を要するため、市民に対してその必要性を丁寧に説明し、理解を得ていくことが重要であると考える。